

## 『2015 年 LRI 研究報告会』を開催！！

日化協が取り組む化学物質の人の健康や環境に及ぼす影響に関する研究支援活動:LRI (Long-range Research Initiative: 長期自主研究)は、化学産業が抱える喫緊の課題や社会のニーズに沿ったテーマについて、毎年この時期に定例の研究報告会を開催しています。

今回は、8月28日(金)に、東京のベルサール神田にて開催、約200名の参加者があり、活発な議論が行われました。

報告会は、日化協の西出専務による、今回の研究報告会企画の経緯、シンポジウムの狙い等についての説明を含む開会挨拶から始まりました。

午前の部は、愛媛大学沿岸環境科学研究センターの国末達也教授による特別講演、「E-Wasteの化学物質汚染」から始まり、新興国、特にインド、ベトナム、ガーナ等における、電子・電気機器廃棄物由来のダイオキシン類縁化合物や臭素系難燃剤の汚染状況についての調査報告に関する講演が行われました。

続いて、今年より新たに設けた日化協LRI賞の初めての受賞者である、国立医薬品食品衛生研究所・安全性生物試験研究センター 毒性部の北嶋聡室長より、受賞記念講演として、今回受賞の対象となった研究成果である「化学物質の有害性評価の迅速化、定量化、高精度化に関する研究」と題して、実際に開発に関わった評価法について講演いただきました。



日化協)西出専務の開会挨拶



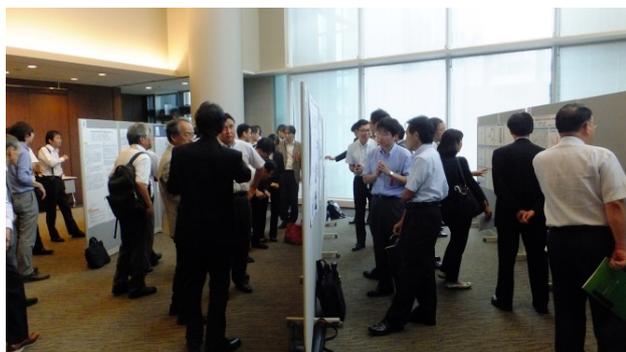
国末達也 教授



北嶋聡 室長



お昼休みには、ロビーにて、現在採択中のLRI研究 18課題の進捗状況と成果について紹介する「ポスターセッション」が行われました。



午後の部は、「*in vitro*、*in silico* はどこまで *in vivo* に近付けるか？」をテーマとしてLRIシンポジウムを行い、5件の講演の後、発表者によるパネルディスカッションを行いました。

- ◆ 「核内受容体の肝毒性発現への寄与と毒性予測への応用」  
吉成 浩一（静岡県立大学薬学部 教授）



- ◆ 「In vitro 皮膚感作性試験 h-CLAT」  
足利 太可雄（株式会社資生堂リサーチセンター）



- ◆ 「化学物質の反復投与毒性を in silico で評価するツール:HESS」  
山田 隆志（独立行政法人製品評価技術基盤機構化学物質管理センター）



- ◆ 「国立衛研の立場」  
小島 肇  
（国立医薬品食品衛生研究所・安全性生物試験研究センター 新規試験法評価室長）



- ◆ 「OECD での議論は」  
井口 泰泉  
（自然科学研究機構基礎生物学研究所・岡崎統合バイオサイエンスセンター 教授）



- ◆ パネルディスカッション

座長に林 真 名誉理事長（公益財団法人食品農医薬品安全性評価センター）を迎え、午後の部の発表者5人によるパネルディスカッションを行いました。特に、AOP(Adverse Outcome Pathway: 有害性が発現する経路)に関しては会場からの質問もあり、熱心な議論が行われました。



最後に、日化協 LRI 顧問会議の岩本正和議長（中央大学研究開発機構教授）より、2012年に新 LRI に移行してから、研究開発も活性化し、LRI 賞のような新しい試みが行われ、良い方向に進んでいる、との閉会挨拶で報告会を終了しました。



以上